

CDP 企業調査 「気候変動」「水セキュリティ」部門の評価結果について

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、このたび CDP※が実施する調査において、「気候変動」部門、「水セキュリティ」部門ともに、「B」評価を取得しましたのでお知らせいたします。

当社は、特殊鋼電炉メーカーであり、自動車産業に携わる企業として脱炭素社会実現への貢献を未来への責任と認識し、2030年度までにCO₂排出量を50%削減（2013年度比）および、2050年度までのカーボンニュートラル早期実現を目指して取り組みを進めています。

また、水資源は当社の事業に必要不可欠であることから、その有効活用や水環境の保全に取り組むとともに、台風や洪水等の水害リスク対策にも注力しています。

これら全社一体での継続的な取り組みにより、昨年「C」評価であった「水セキュリティ」部門において、今回は「B」評価を取得することができました。

当社は、2030年ビジョンの経営指針のひとつとして「持続可能な地球環境への貢献」を掲げています。これからも事業活動を通じて、環境負荷の低減、生物多様性の保全などに一層取り組んでいきます。

当社サステナビリティに関する詳細は以下リンクをご参照ください。

- ・[愛知製鋼統合レポート2024](#)（PDF）
- ・[サステナビリティの取り組み](#)（当社HP）

※ CDPは、企業や自治体を対象とした世界的な環境情報開示システムを運営する国際環境非政府組織（NGO）。企業などの環境への取り組みを、「A」から「D-」までの8段階で評価し、2024年には約24,800社がCDPを通じて環境情報を開示。